

2025年2月期 第1四半期

決算説明会

2024年7月11日



イオンフィナンシャルサービス

証券コード 8570(東証プライム・その他金融)

決算サマリ

企業価値向上に向けた“選択と集中”の効果が現れつつあり、業績は伸長
資産収益性・生産性の向上に成果

● 資産収益性

➢ 高利回り営業債権残高[※]が順調に拡大し、収益に貢献

※ 国内:8,117億円(YoY110%/期首差+346億円)、国際:9,571億円(YoY115%/期首差+515億円)

● 生産性

➢ 営業収益の拡大(YoY110%)に対し、営業費用の増加を抑制(YoY105%)し、
連結営業利益は152億円(YoY166%)に伸長

➢ 国内:決済を中心に取扱高拡大、市場環境の変化を捉えた銀行の収益拡大
販促費の費用効率向上(YoY△13億円)と貸倒関連費用の抑制により大幅増益

➢ 国際:マレー圏が先んじて回復し国際事業をけん引
貸倒関連費用は高止まり傾向にあるものの、与信・回収体制の強化を継続

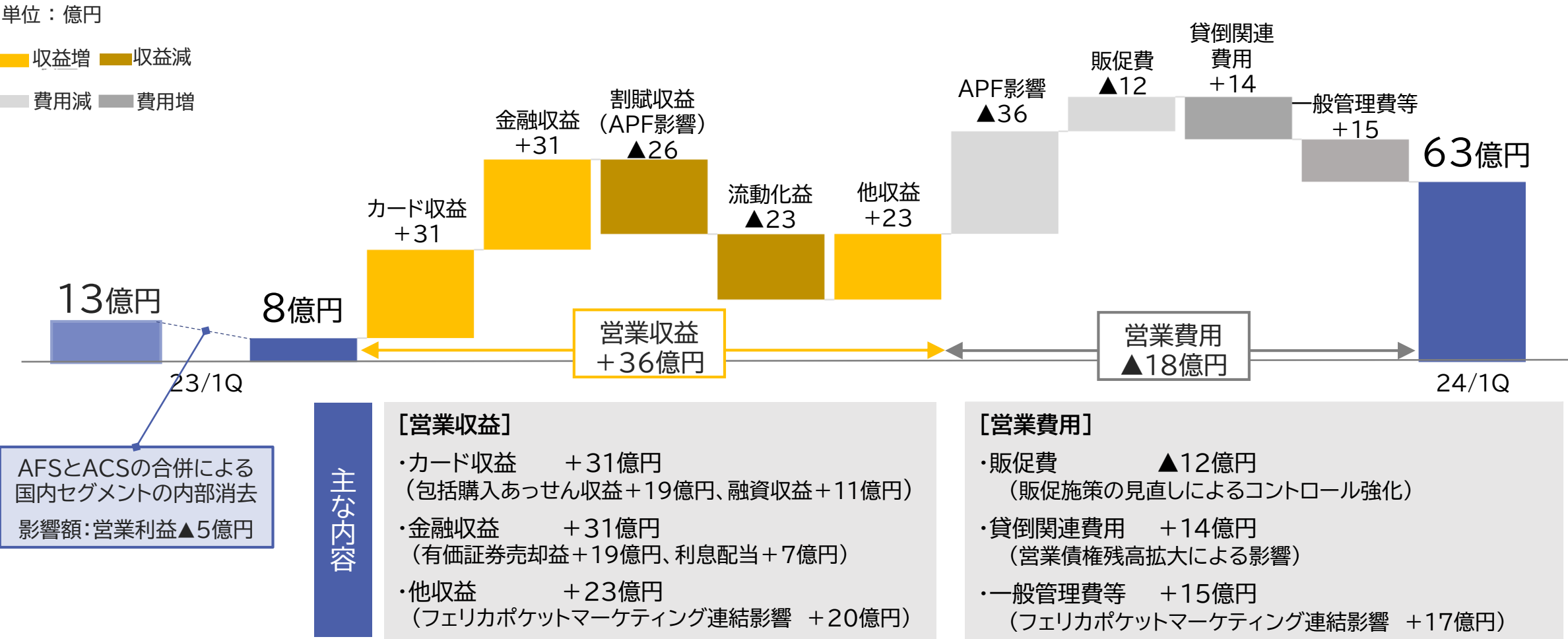
2025年2月期 1Q 連結業績ハイライト

	連結	YoY					24年度通期 連結見通し	進捗率
			国内 ※	YoY	国際	YoY		
営業収益	1,279 億円	110 %	753 億円	105 %	531 億円	117 %	5,200 億円	25 %
営業利益	152 億円	166 %	63 億円	753%	87 億円	107 %	550 億円	28 %
経常利益	159 億円	167 %	—	—	—	—	550 億円	29 %
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	60 億円	169 %	—	—	—	—	210 億円	29 %

※23年6月実施の国内経営統合により、これまで調整額に計上していたイオンフィナンシャルサービス(株)の業績を国内セグメントに計上
なお、YoYは前年実績を変更後のセグメントに組み直し算出

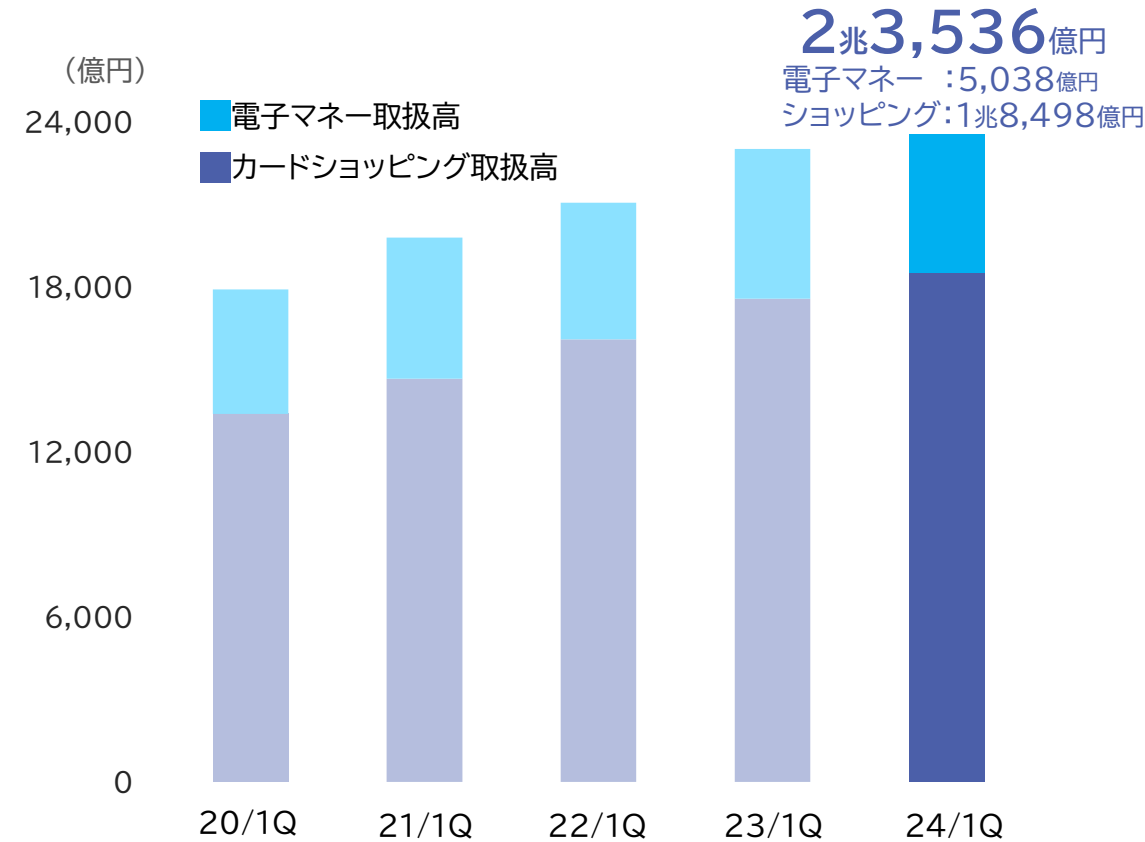
[国内] 1Q営業利益 前年同期差内訳

- 子会社譲渡の影響がありつつも、カード収益の継続的な増加と金融収益の計上により増収
- 債権残高の増加により貸倒関連費用が増加も、費用対効果を重視した販促費コントロールを継続

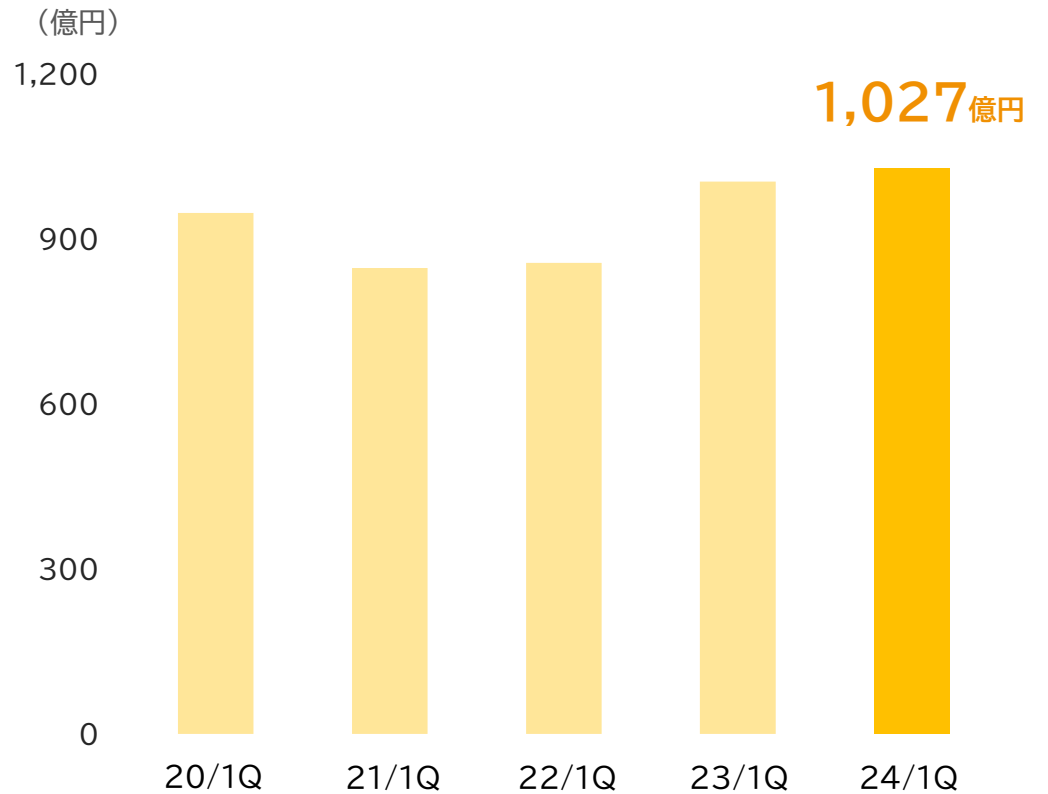


- ゴールドカード限定特典開始やAEON Pay利用促進も貢献し、ショッピング取扱高はYoY105%
- キャッシング取扱高はアプリ利便性の向上、アウトバウンドコール等の訴求強化でYoY102%

決済取扱高



キャッシング取扱高



〔国内〕 グループシナジーの拡大

生産性
(収益拡大)

- ・ イオンモールでのゴールド会員向け特典を開始 来店動機が高まり、利用人数・決済金額ともに増加
- ・ グループシナジー最大化に向け、今後もグループ特典の拡充を図る

イオンモールでの新特典開始(24年4月～)



イオンモール専門店での
お客さま感謝デー(毎月20日・30日)

イオンモールお客さま感謝デー
ゴールドカード決済状況
(前年同日・同規模比較)



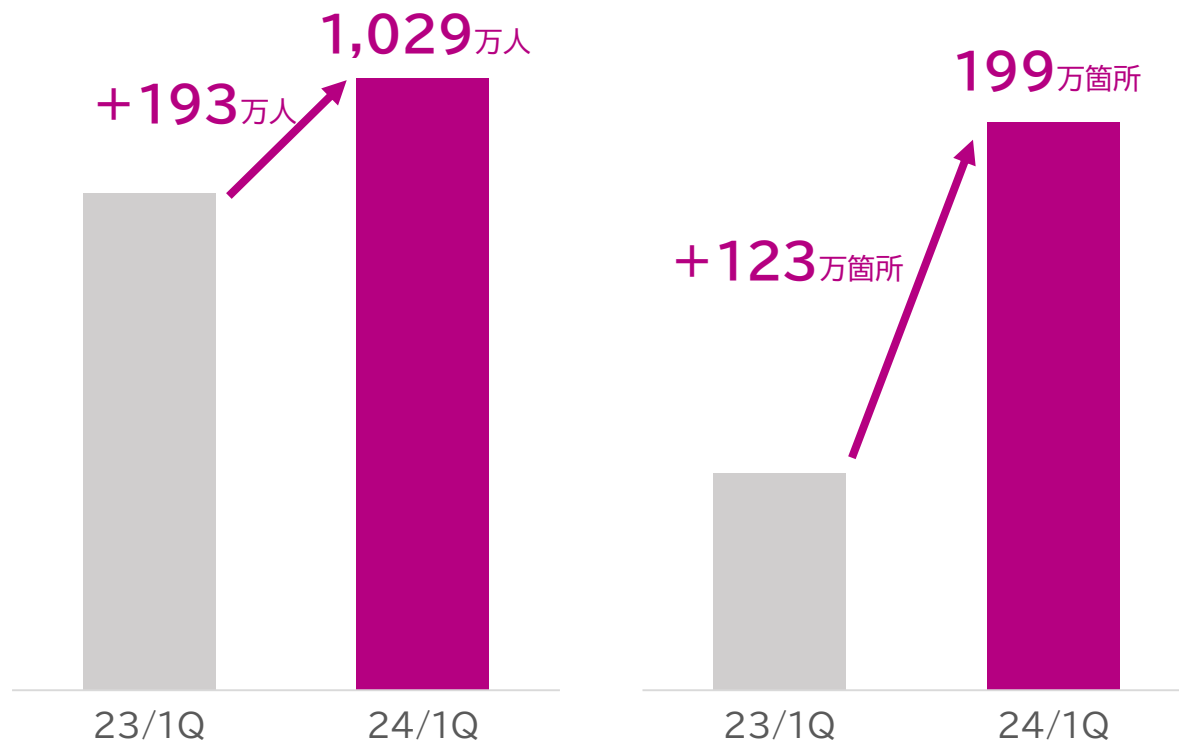
利用人数	+30%
取扱高	+60%

- AEON Pay会員数は1,000万人超となり、利用可能箇所数も順調に増加
- 日常シーンでの利用が進み、少額決済の取り込みにより1人当たり決済額の拡大に寄与

会員数・利用可能箇所数

会員数

利用可能箇所数



AEON Pay会員 決済金額

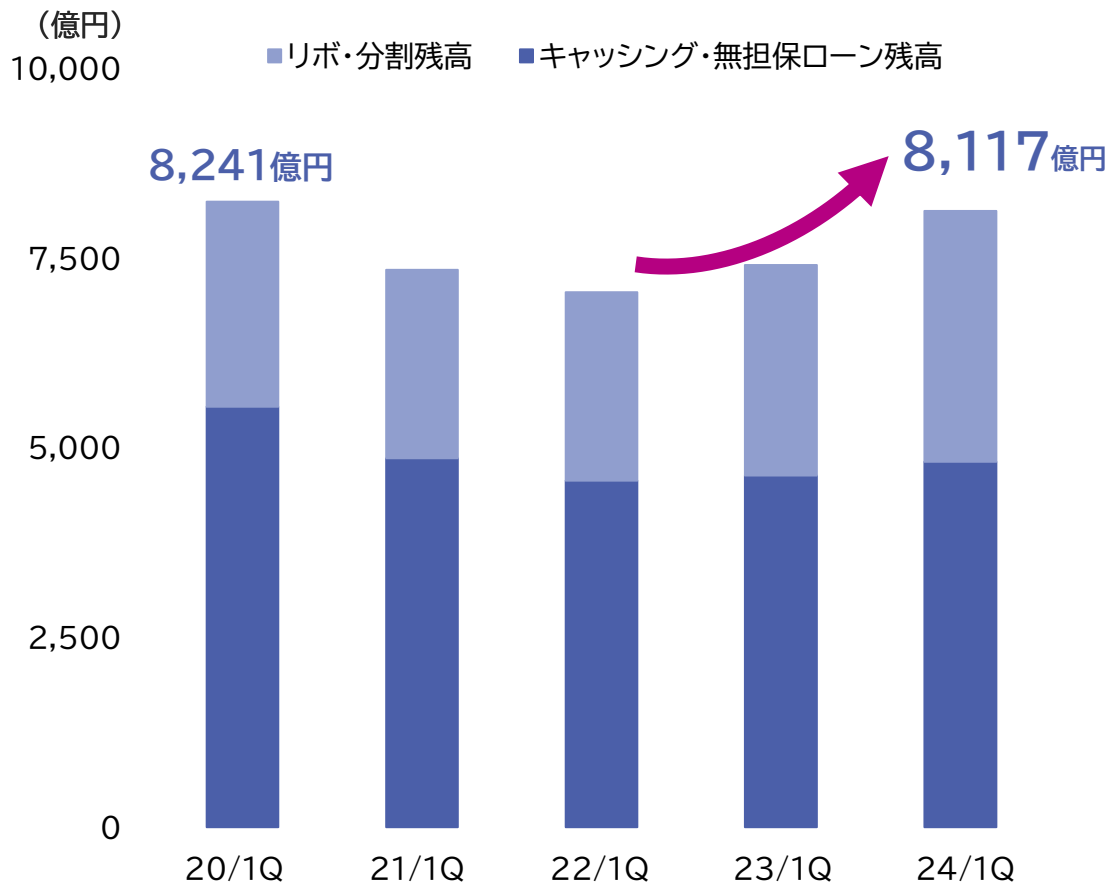
対 AEON Pay未登録会員

+17,000円/月



- YoYで110%の伸びが継続し、下期にはコロナ前水準への回復を見込む

営業債権残高



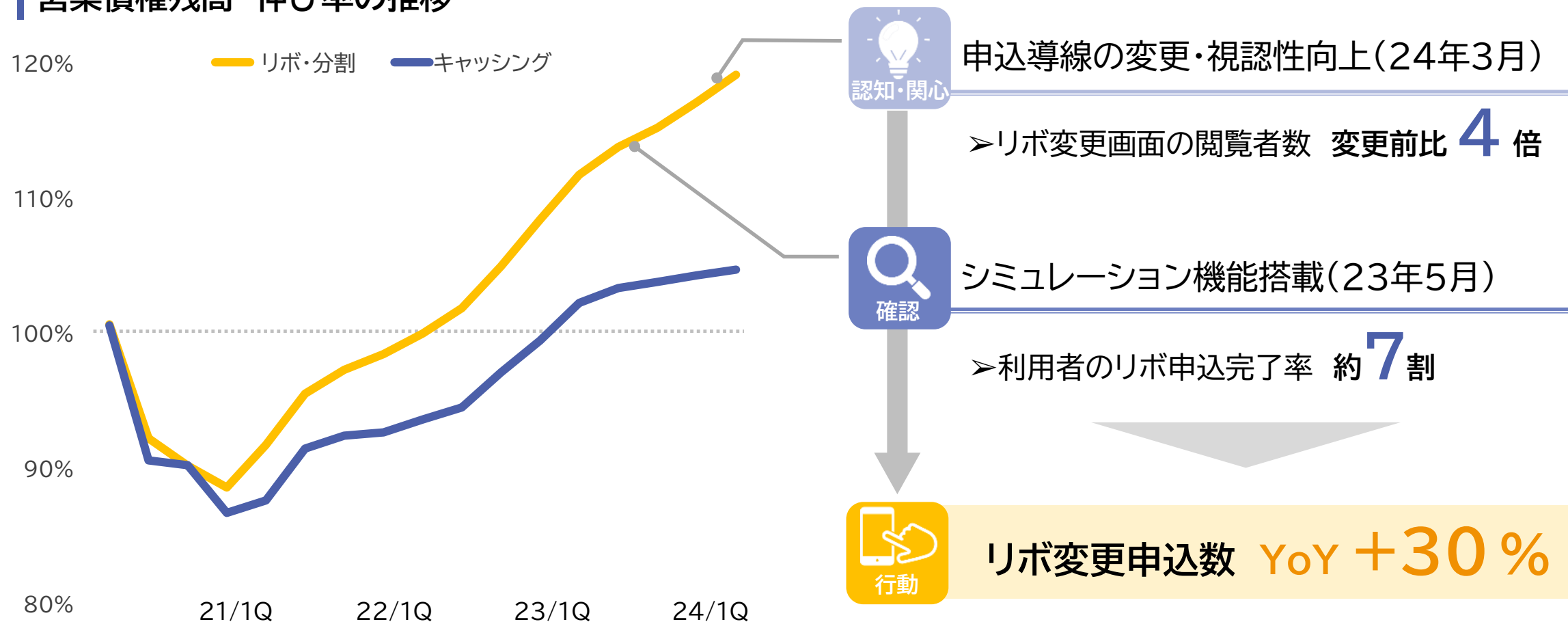
内訳

	YoY	期首差
■ ショッピングリボ	120%	+175億
■ 分割払い	113%	+20億
■キャッシング	105%	+148億
■ 無担保ローン (銀行カードローン等)	98%	+2億
計	110%	+346億

〔国内〕 アプリ改善によるUX向上

- ・「イオンウォレット」の機能及び視認性向上により、リボ変更数が増加 リボ残高の増加に寄与

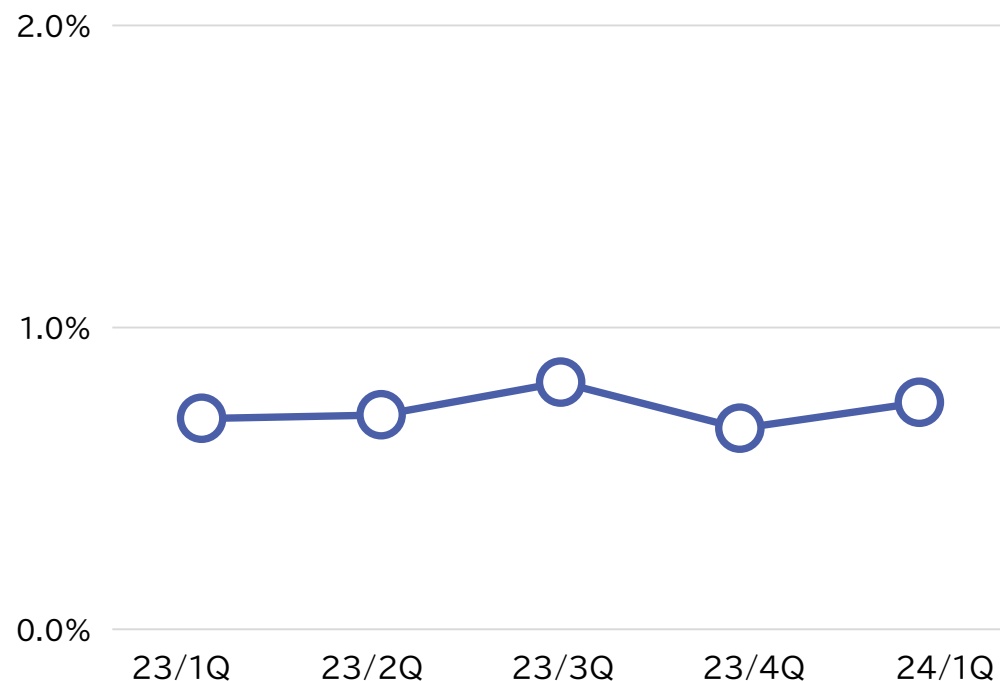
営業債権残高 伸び率の推移



- 営業債権残高に対する貸倒関連費用の比率は低位で推移

貸倒関連費用率の四半期推移

※リボ・分割、キャッシング、無担保ローンの合計残高に対する貸倒関連費用率



債権回収の生産性向上



お客さま情報の最新化

アウトバウンドコールでの
住所・連絡先等の登録情報
メンテナンスの推進

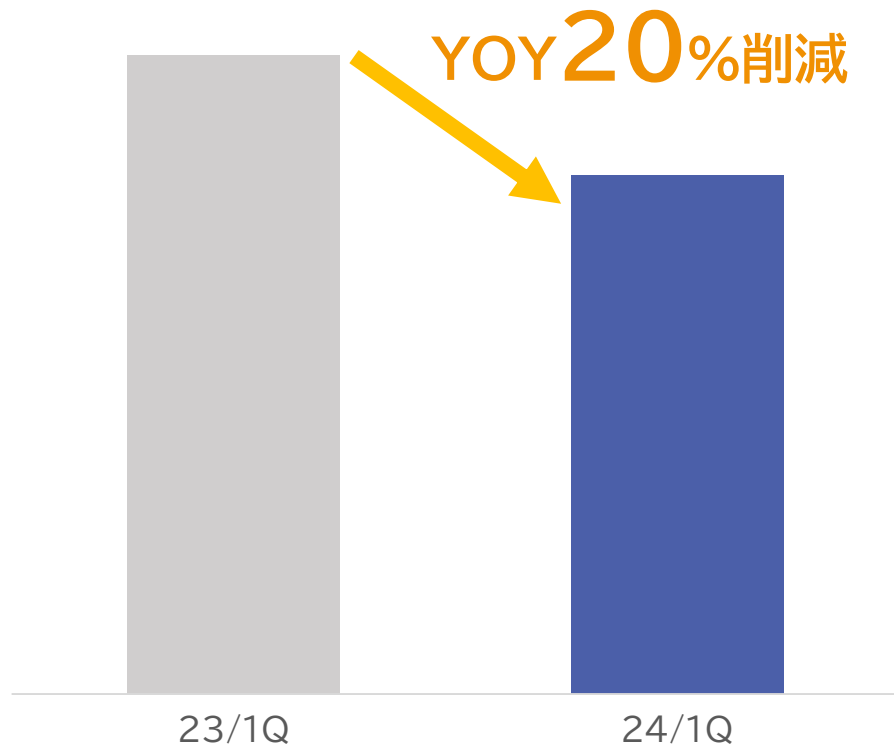


SMSを活用した案内効率化

架電後、お手続き内容確認の
SMSを送信
ご案内の正確性向上

- ・ 店頭及びインターネット募集の運用見直しにより、獲得効率が改善

1会員あたり獲得コスト



生産性向上



活用チャネルの見直し

獲得効率に加え
入会後の継続利用率・収益性の高い
チャネルでの獲得シェアの拡大



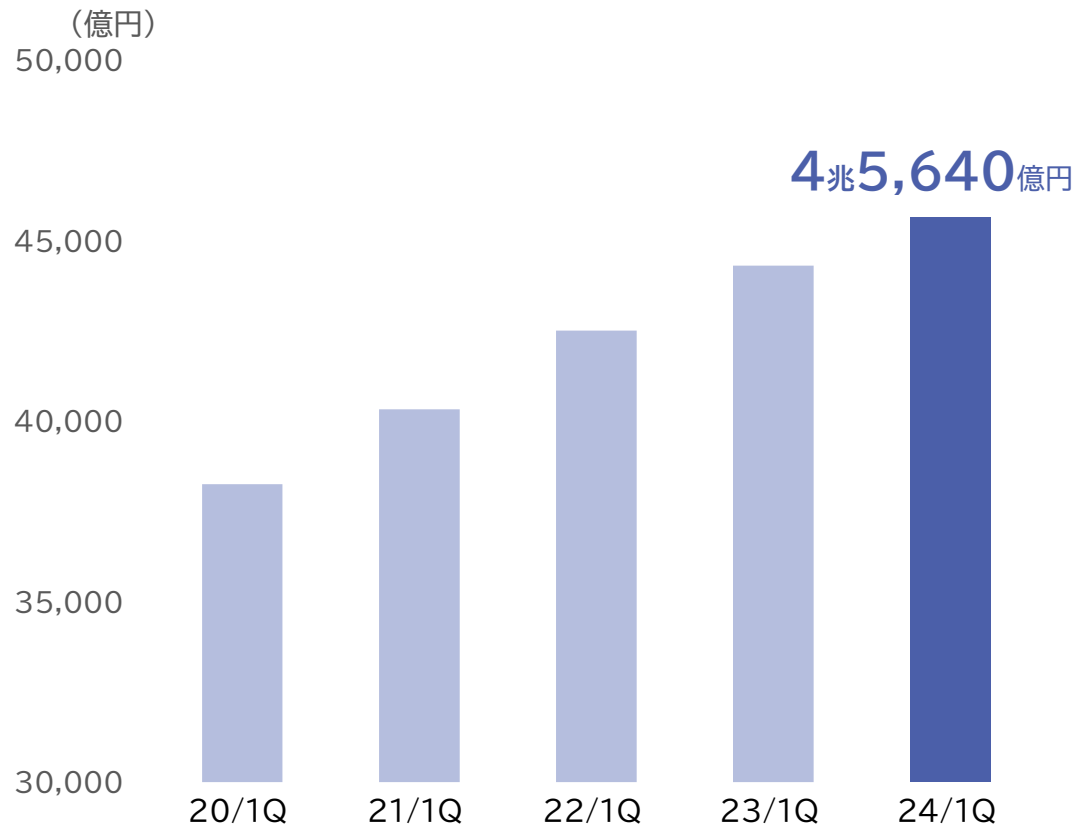
グループとの連携強化

ウエルシア等の独自特典の訴求や、
小売企画と連動した
募集体制の強化

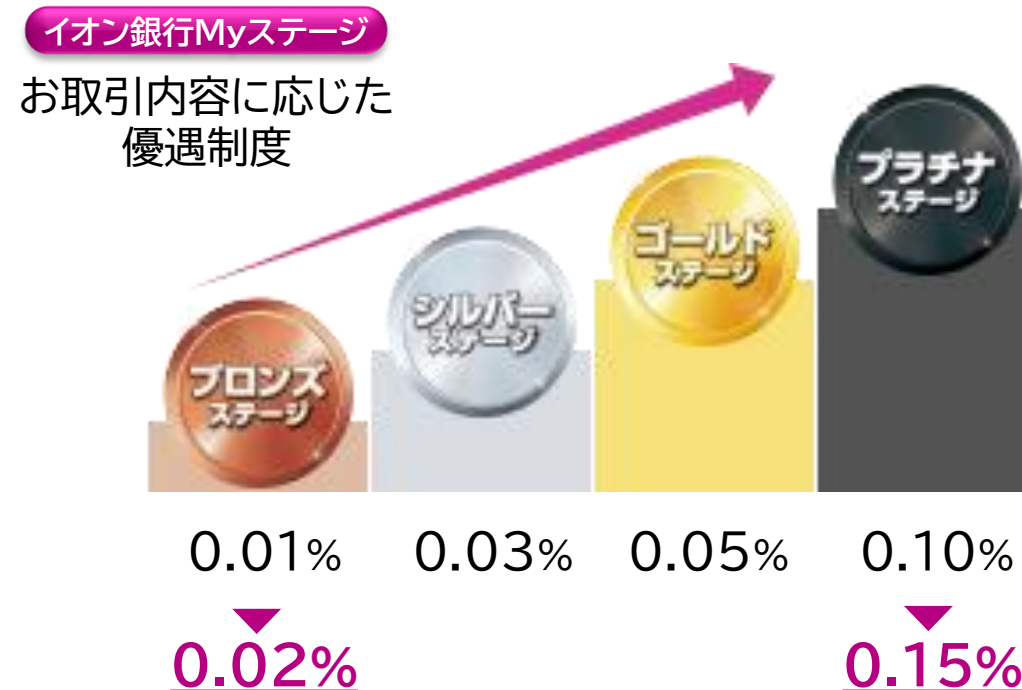
[国内] 銀行預金

- 預金残高は定期預金キャンペーン等によりYoYで103%、期首差246億円増
- 取引状況に応じた優遇制度(Myステージ)の拡大により、さらなる預金獲得につなげる

イオン銀行預金残高



円普通預金の金利改訂(24年5月1日)

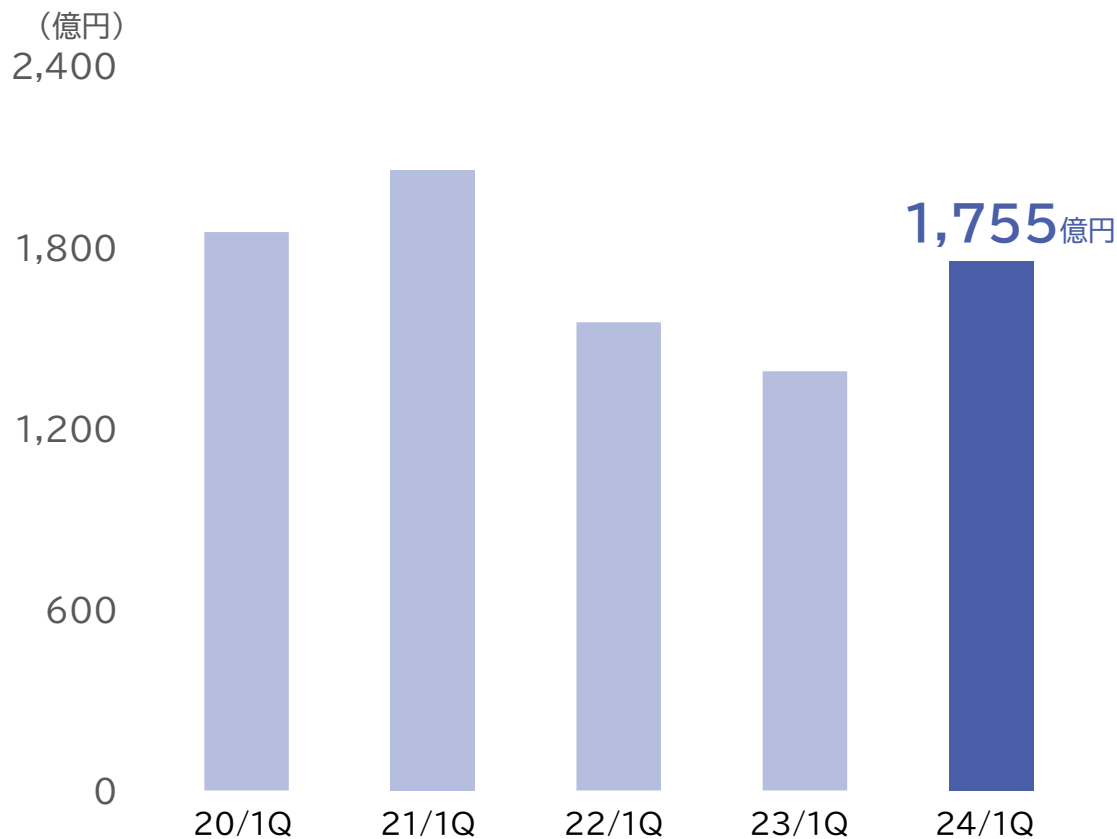


[国内] 住宅ローン

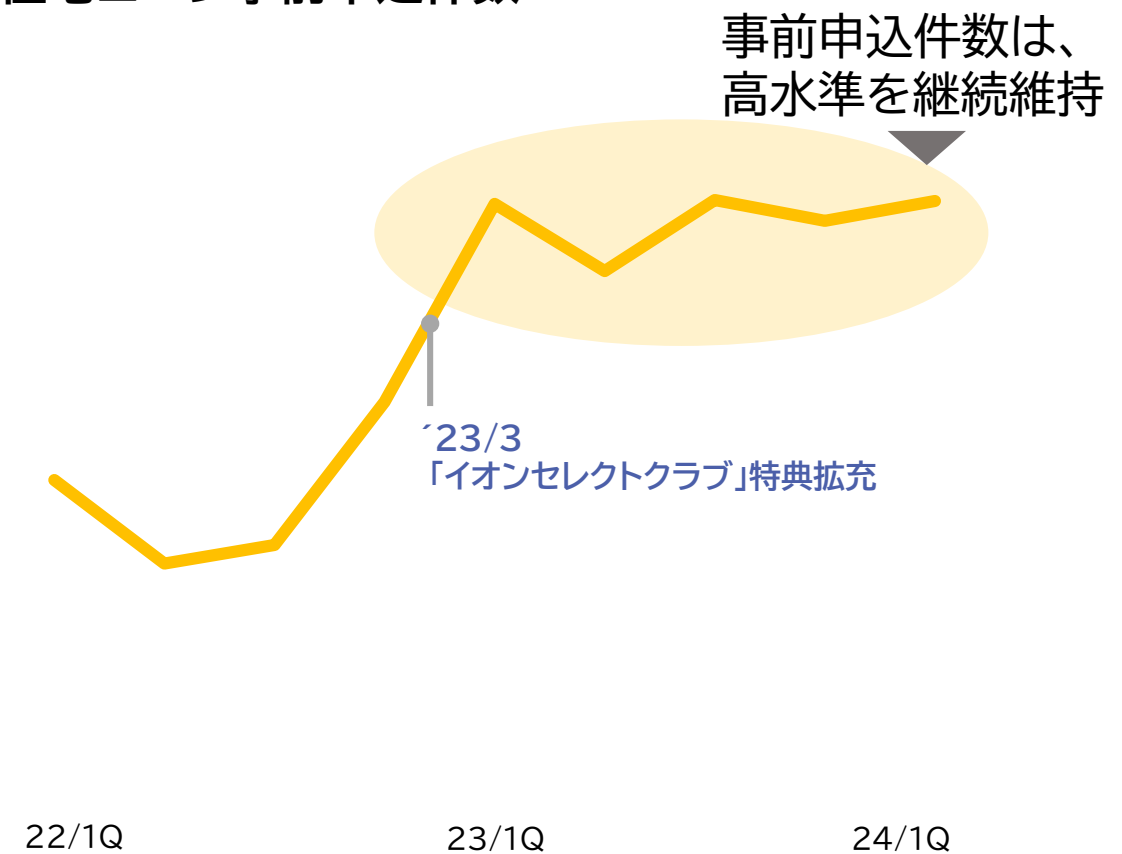
生産性
(収益拡大)

- 「イオンセレクトクラブ」の継続した告知強化により、住宅ローン取扱高はYoY 126%
- なお、5/1より既存の変動金利型住宅ローンの店頭表示利率を0.10%引き上げ

住宅ローン取扱高



住宅ローン事前申込件数



[国際] セグメント別 業績ハイライト

- 貸倒関連費用が増加も、マレー圏がけん引し国際事業で増収増益

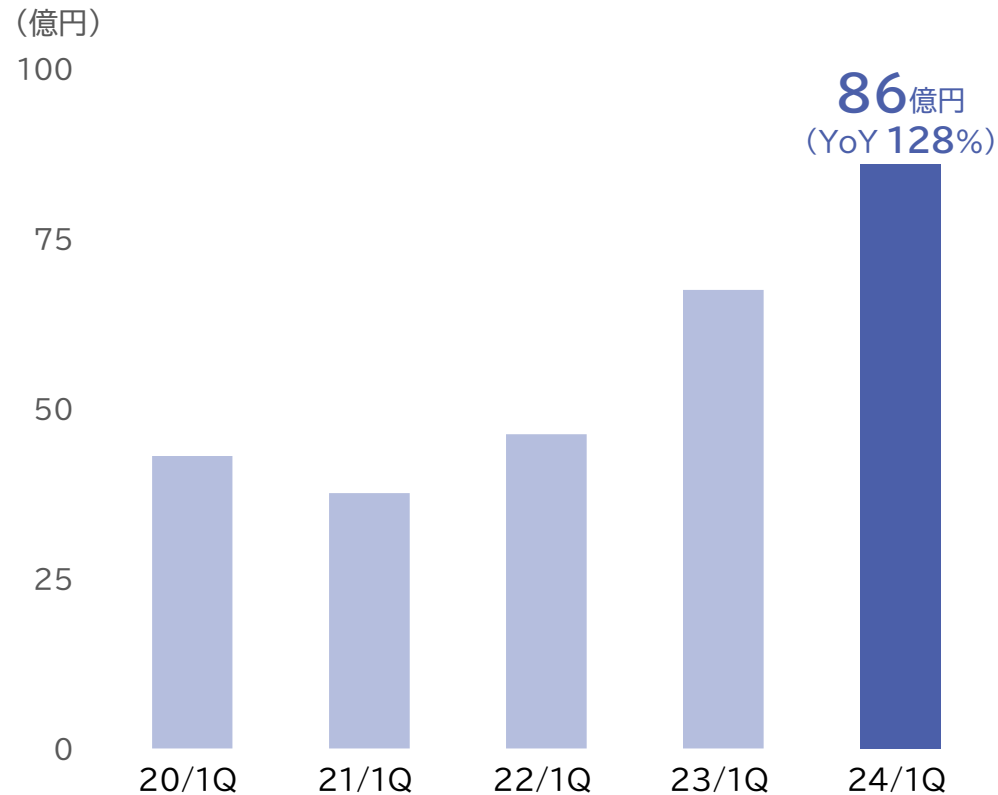
	国際事業		中華圏		メコン圏		マレー圏	
		YoY		YoY		YoY		YoY
営業収益	531 億円	117 %	86 億円	128 %	231 億円	107 %	214 億円	127 %
営業利益	87 億円	107 %	19 億円	91 %	25 億円	96 %	42 億円	128 %
<参考> 貸倒関連費用	170 億円	114 %	23 億円	196 %	88 億円	104 %	59 億円	113 %

期中平均レート
 ※()内は前年同期差
 HKD : 19.67円(+2.34円) THB : 4.21円(+0.27円) MYR : 32.48円(+2.16円)

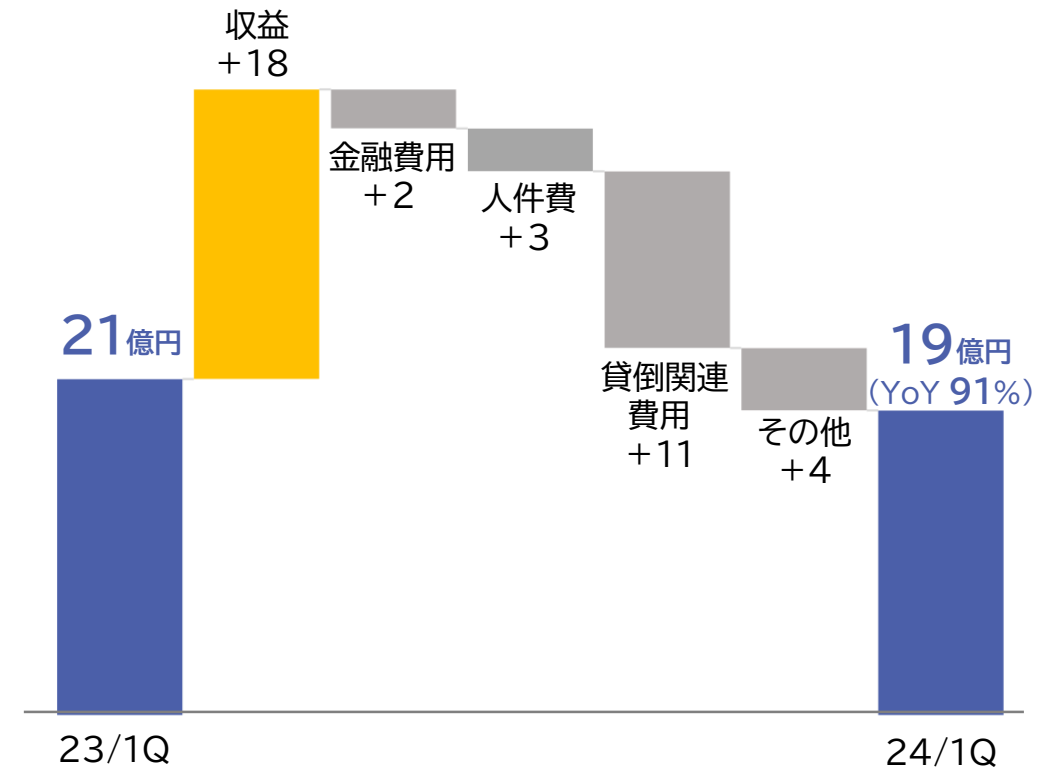
[国際] 中華圏の業績ハイライト

- カードキャッシング利用や個人ローンの申込増加により債権残高が増加し、収益は過去最高を更新
- 個人破産件数増に伴う貸倒増加が継続 破産予測スコアを活用し、審査厳格化・途上与信を強化

営業収益



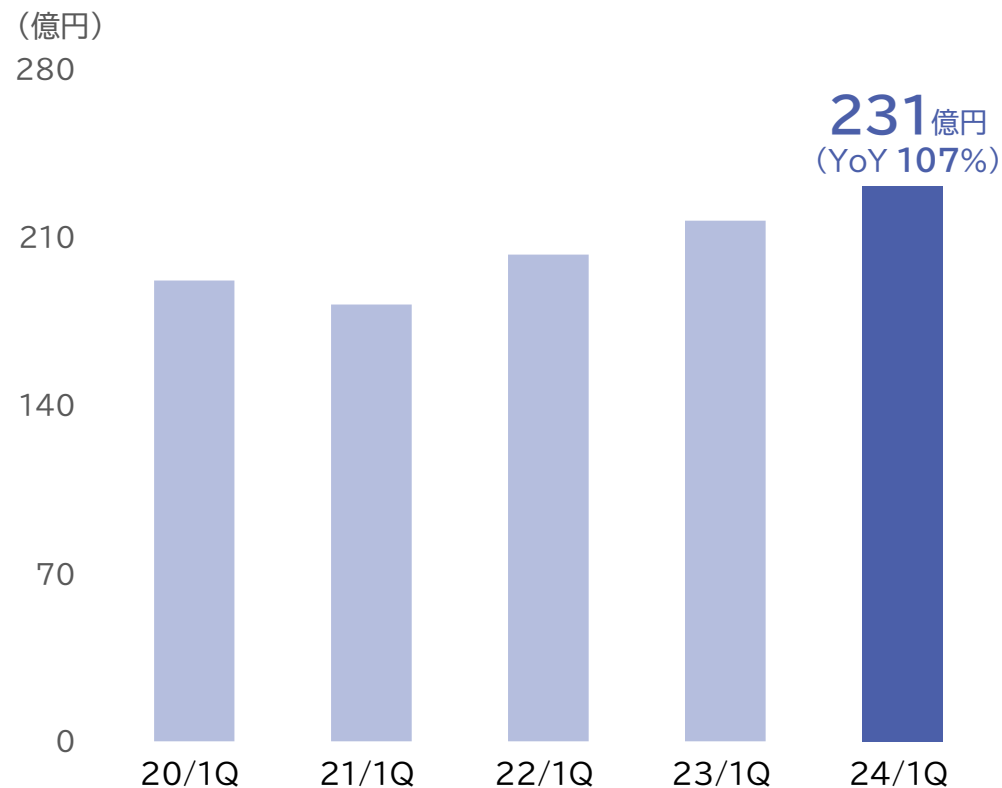
営業利益前期差内訳



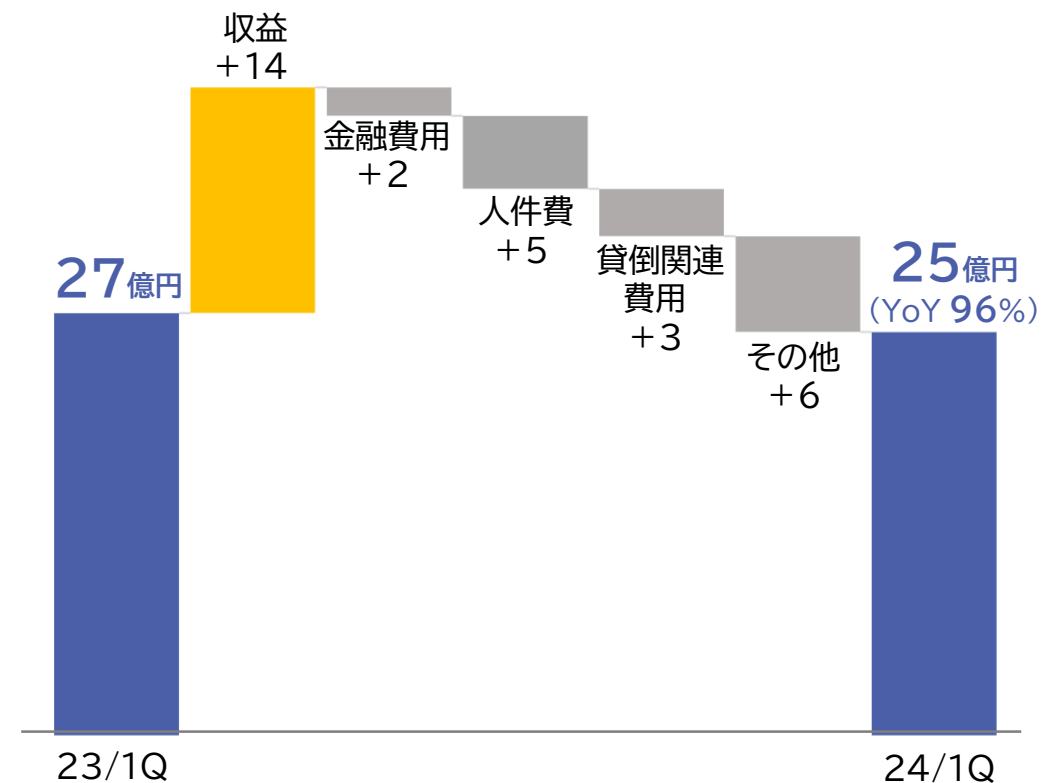
〔国際〕 メコン圏の業績ハイライト

- ・ 休眠会員に向けたプロモーションにより、キャッシング・個人ローンともに取扱高拡大
- ・ 経済環境の低迷が長期化しており、貸倒関連費用は引き続き高水準

営業収益



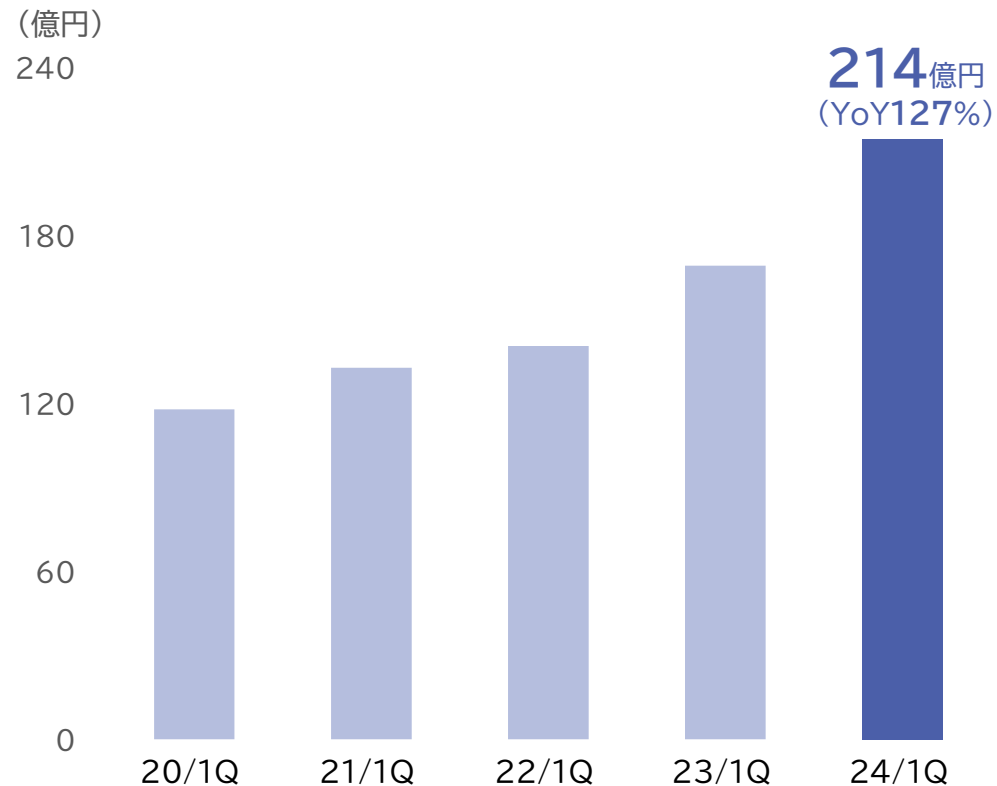
営業利益前期差内訳



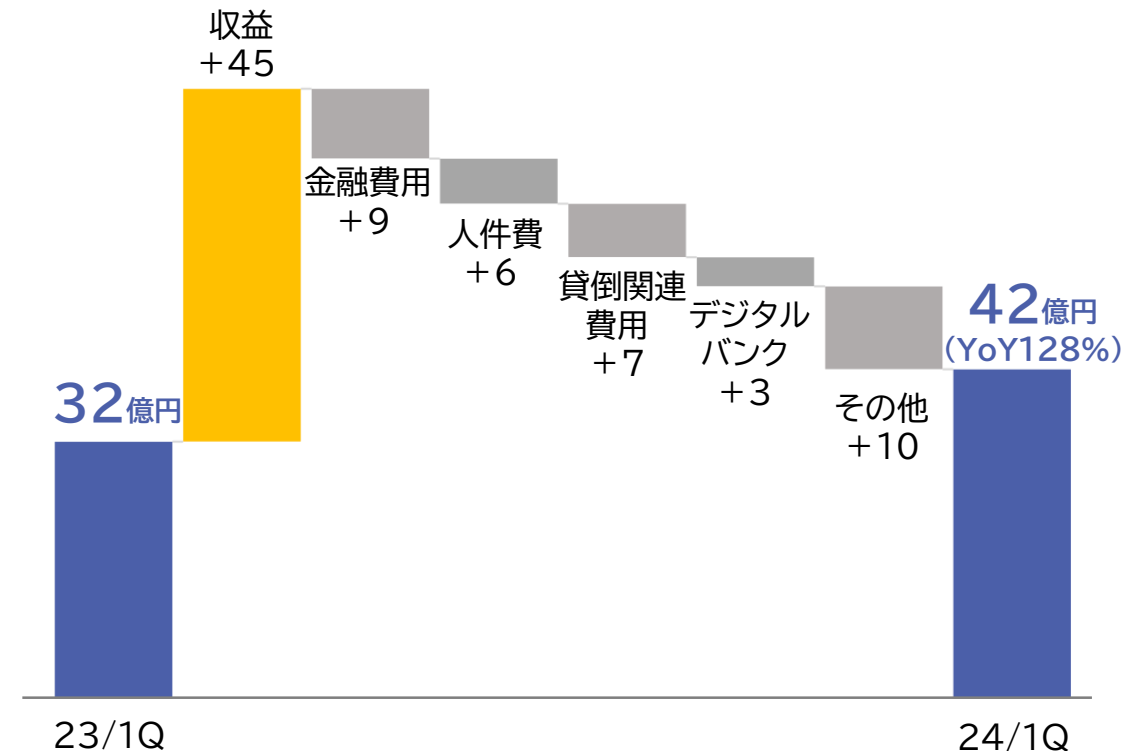
【国際】 マレー圏の業績ハイライト

- 個品割賦に加え、個人ローンのデジタル完結・審査時間短縮など利便性向上により残高が増加
- AIスコア等を活用した与信精緻化により貸倒関連費用は安定 デジタルバンクの費用増を吸収し増益

営業収益



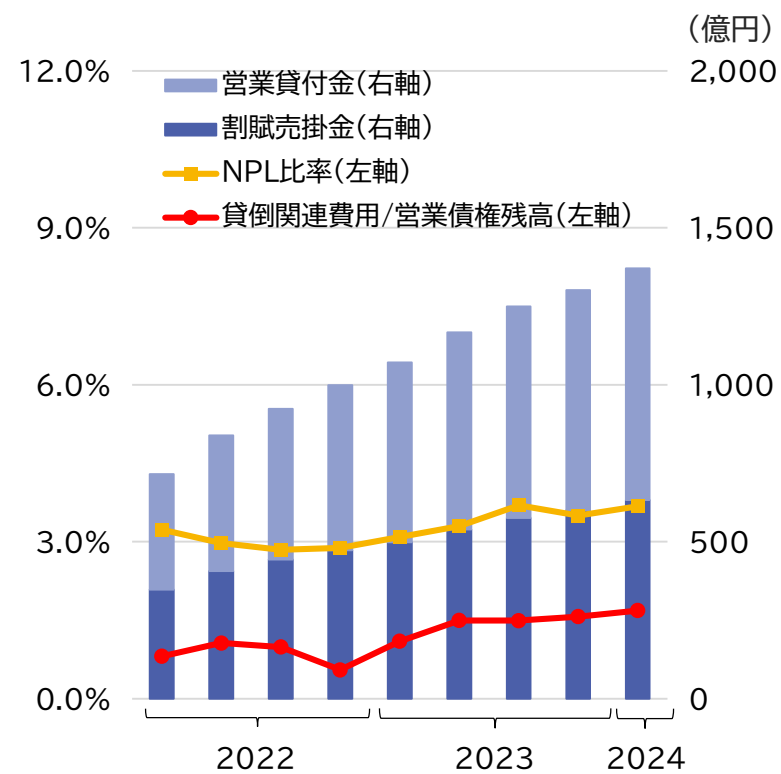
営業利益前期差内訳



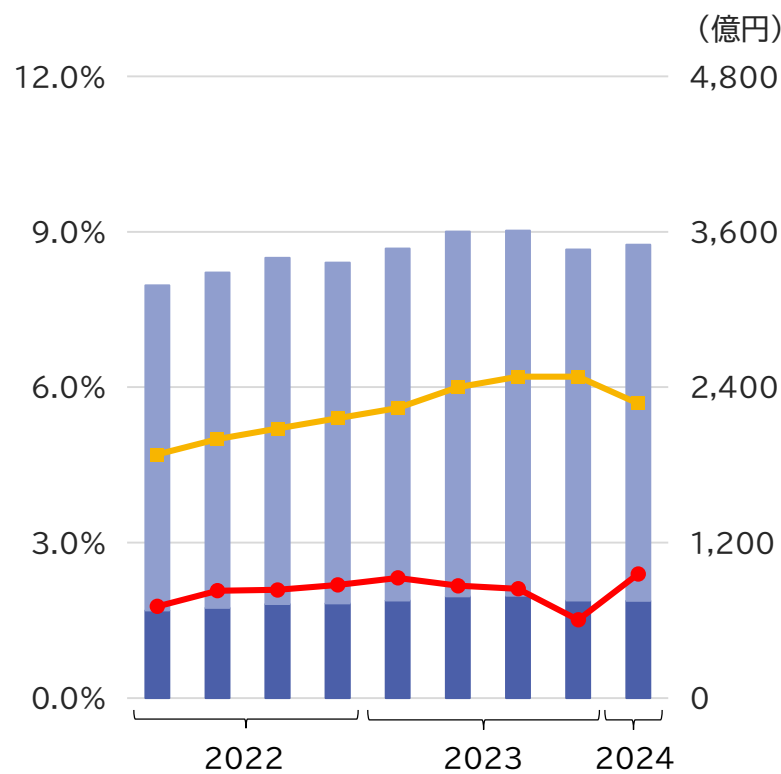
[国際] 上場子会社の債権残高およびNPL推移

- マレーシアは債権残高の積み上げが加速するも、NPL比率は安定
- 香港、タイではトップライン強化と与信管理のバランスを見極め、ボトムラインの最適化を図る

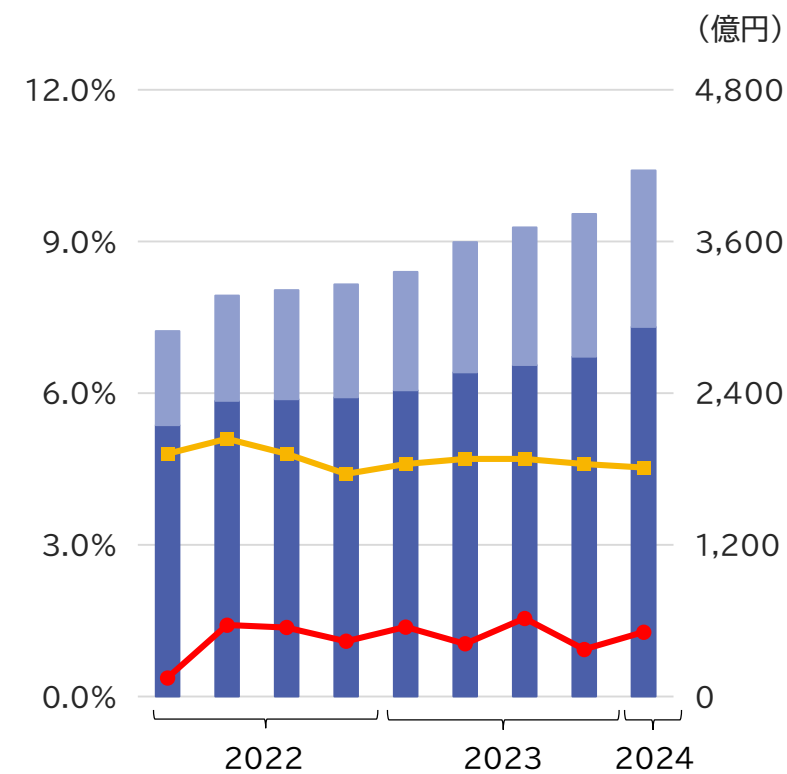
■ ACSA(香港)



■ AEONTS(タイ)



■ ACSM(マレーシア)



期末日レート ※()内は前期末差

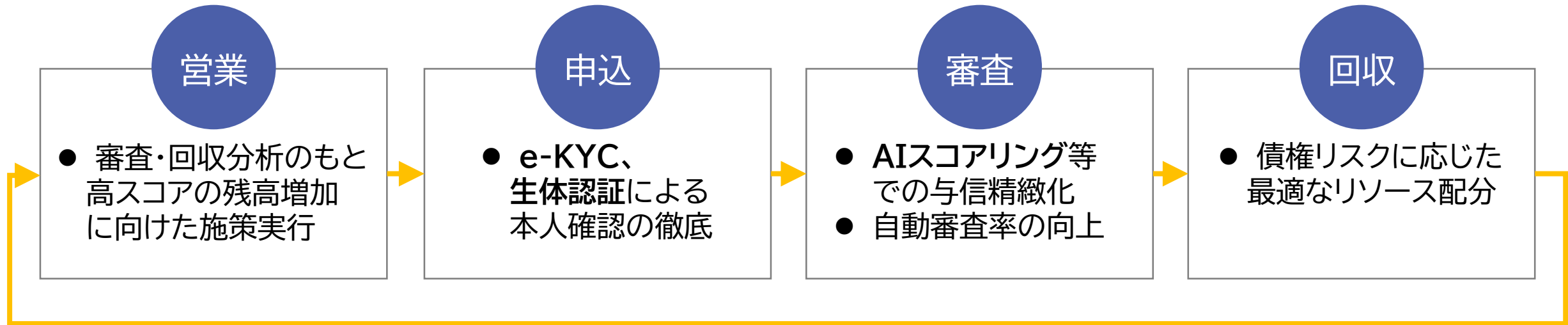
HKD : 20.05円(+0.80円)

THB : 4.27円(+0.09円)

MYR : 33.35円(+1.70円)

- ・ AI技術の活用や新たなスコアリングモデルの導入による、与信・回収精度を向上
- ・ 各国への技術、ノウハウの共有・水平展開により、AFSグループ全体での体制強化を図る

マレーシア



AIやデジタル技術を活用した与信・回収体制の高度化と
データ分析をもとにした営業施策の実行サイクル

[国際] デジタルバンク開業(マレーシア)

- マレーシアで初となるイスラム金融方式でのデジタルバンクを5月26日に開業
- イオン生活圏におけるデジタルサービスの中心として拡大を図る

5/26 AEON BANK(M)開業



銀行預金

デビットカード

コード決済

ポイントカード



〔国際〕 デジタルタッチポイントの拡大

生産性
(収益拡大)

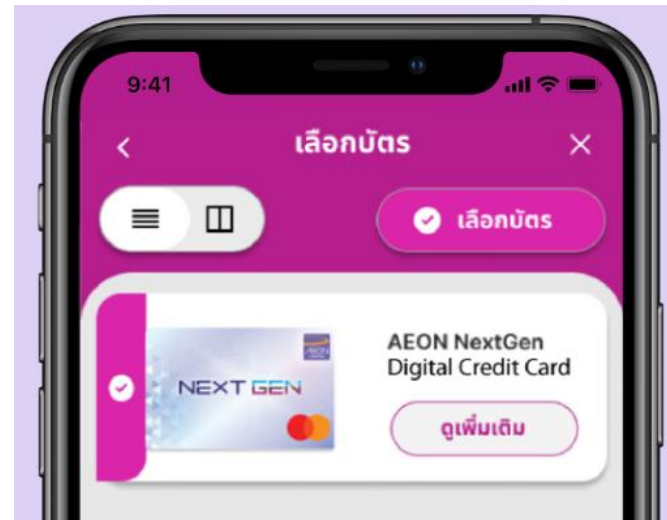
- ・ 各国にてスマホを中心としたデジタル金融サービスを拡充 利便性向上と新たな顧客層を拡大

■ 中華圏(ACSA)



自社アプリの銀聯QRやNFC
決済対応による決済機会の拡大

■ メコン圏(AEONTS)



完全デジタルのクレジットカード
「Next Gen」の新規発行

■ マレー圏(インドネシア)



アプリ上で本人確認・契約・決済が
完了するBNPLの提供



重点实施事項

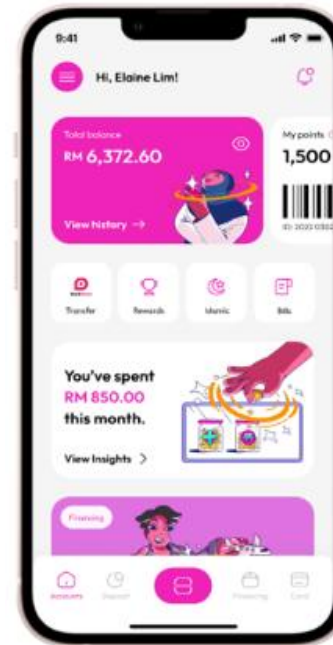
[国際/マレーシア] イオンバンク(マレーシア)認知向上

- イオングループ各社や外部媒体(リアル、デジタル)を活用しマレーシア全土での認知強化
- 顧客組織化により、デジタルバンクを起点にイオン生活圏を構築

リアル・デジタルを活用した認知強化



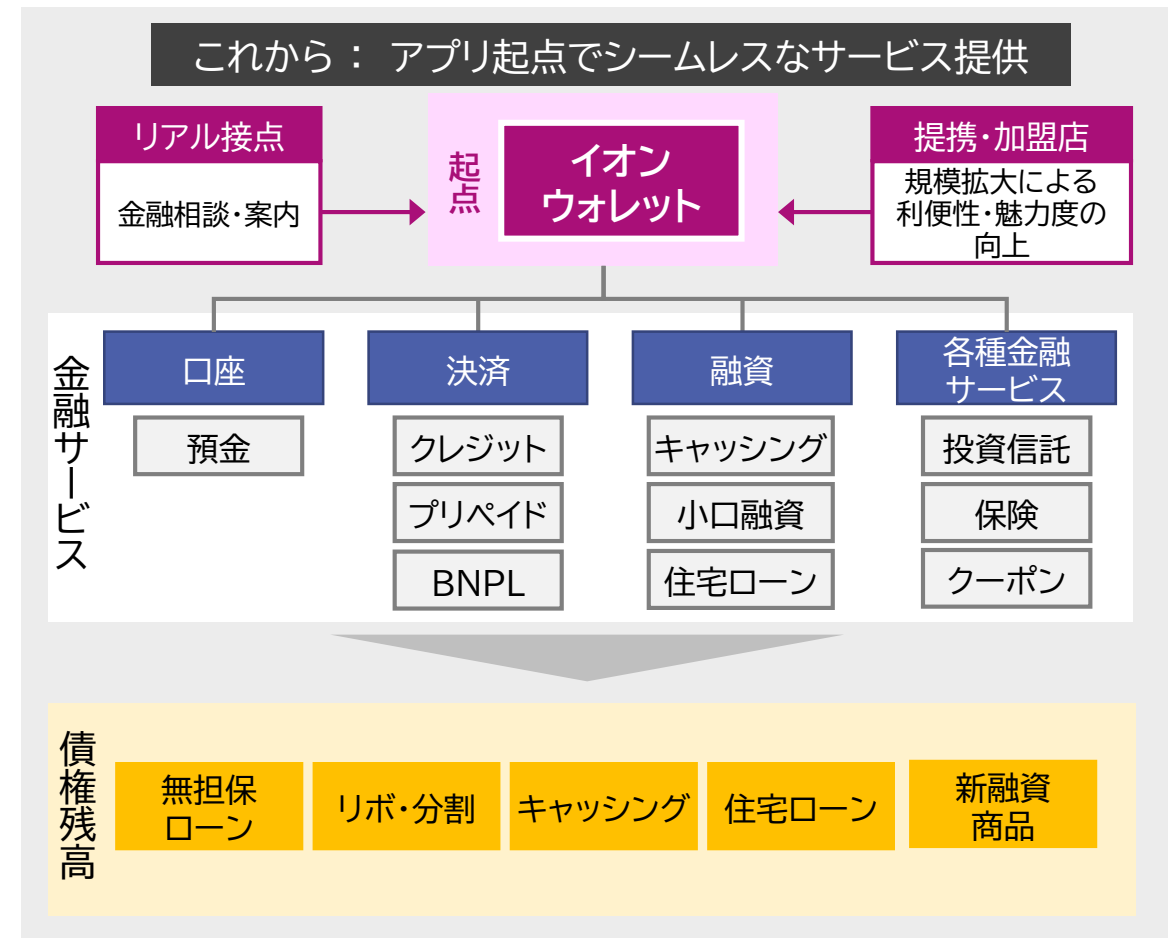
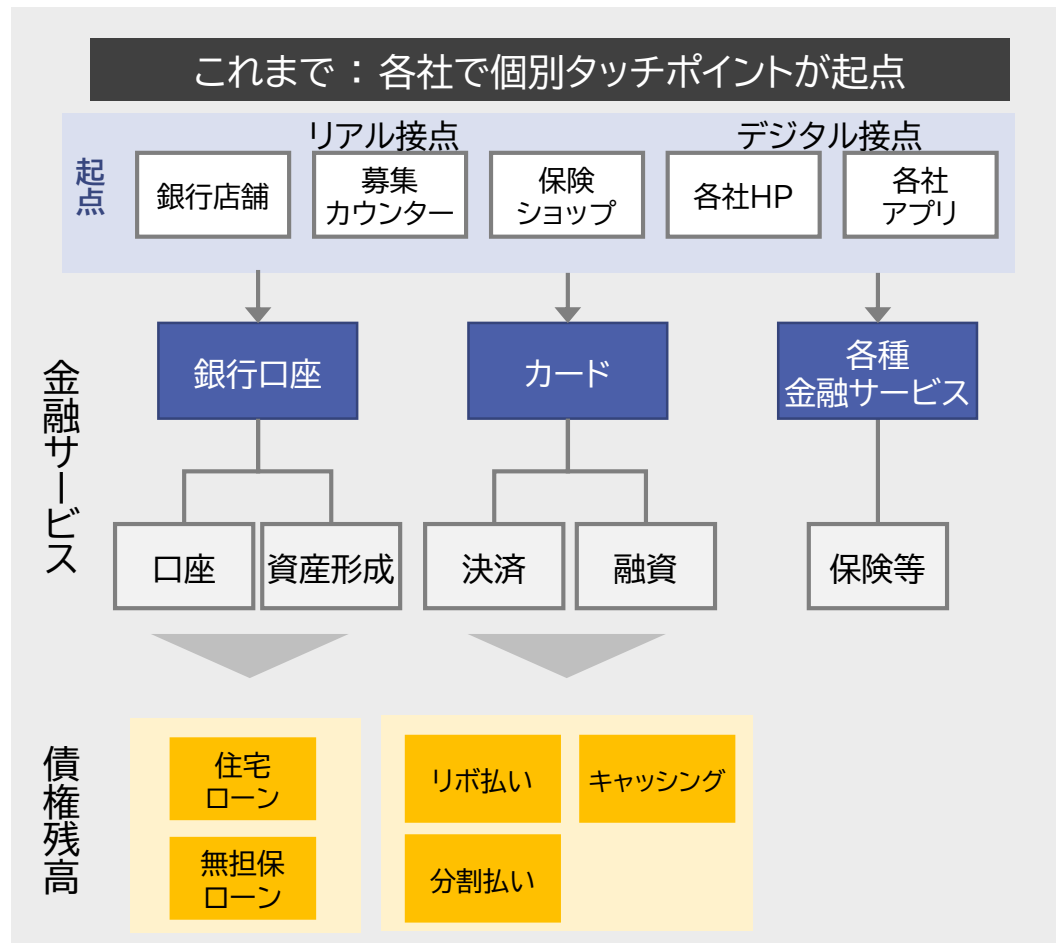
イオンバンク(マレーシア)アプリを起点としたデータ活用によるパーソナライズド・マーケティング



グループとお客さま・
取引先をつなぎ
イオン生活圏構築



- 身近な接点であるデジタルウォレット(スマホアプリ)を起点としたタッチポイントへ転換を図り、アプリから各金融サービスをシームレスに利用できる環境を構築 同時にリアル接点の利便性向上を図る



[国内] タッチポイントの転換 <シームレスな顧客体験>

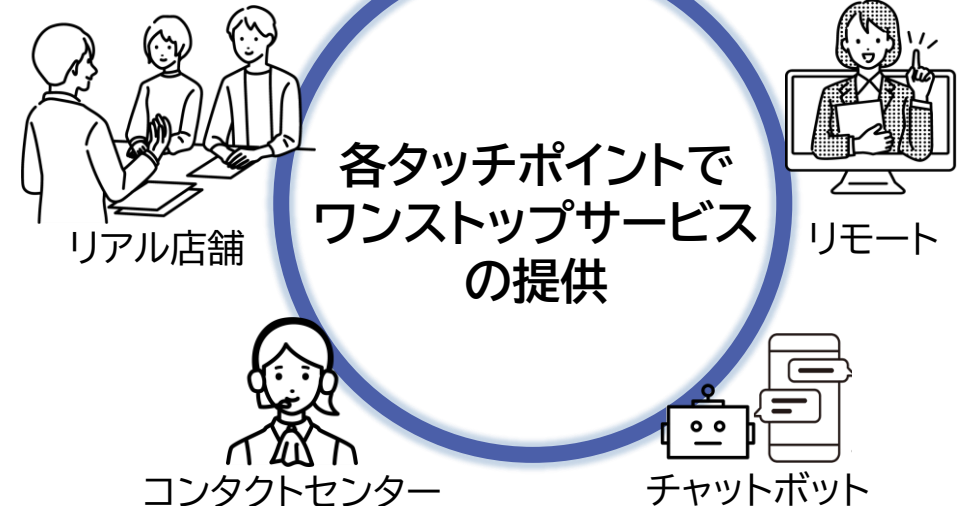
- サービスの分断を解消し、ワンストップでの金融サービス提供が可能な環境へ再整理



FY23~

総合金融アプリとして
イオンウォレット リニューアル

FY24~



[国内] タッチポイントの転換 <総合金融アプリ イオンウォレット>

- 用途に合わせた画面選択等の先進的なデザインが評価され、国際的なデザイン賞を受賞
- UI・UXの向上により、ローン等のクロスセル実績が向上



国際的デザイン賞を受賞



iF Design Award
(ドイツ)



A' Design Awards
(イタリア)

BRONZE賞



アプリ経由申込件数

銀行口座申込

5.6 倍

カードローン申込

7.0 倍

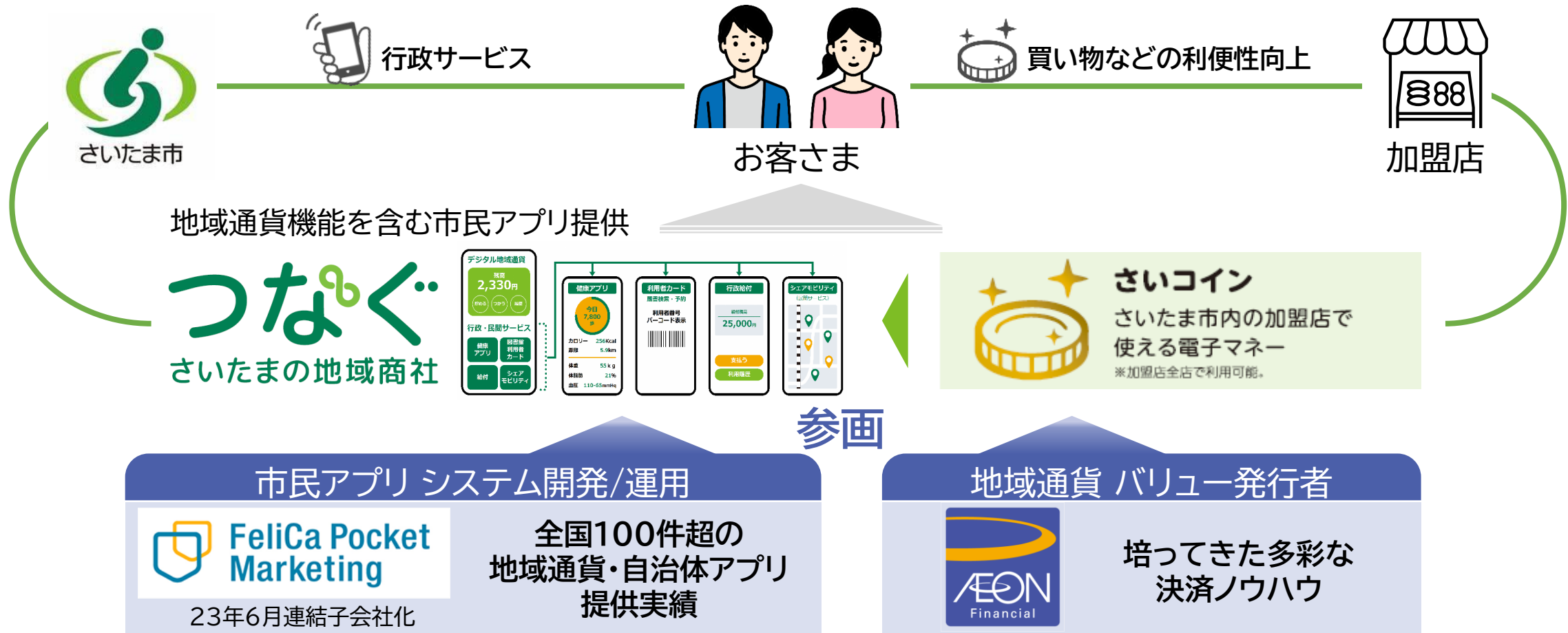
住宅ローン申込

2.6 倍

※前年同月度比較

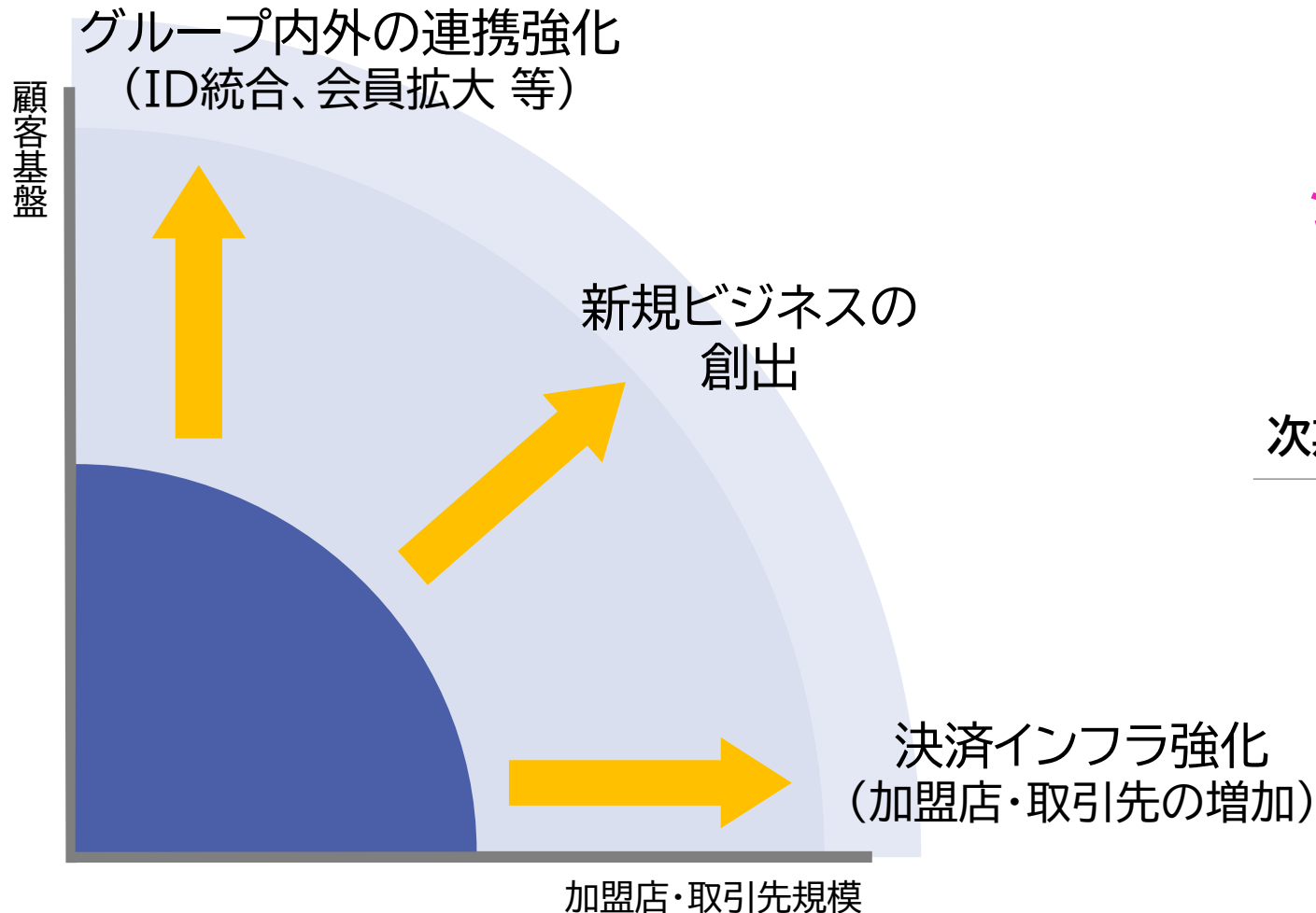
[国内] 地域連携の強化

- 自治体との協働実績を多数持つフェリカポケットマーケティングを中心に、地域社会との連携を強化
- 地域経済の活性化を目的とする、さいたま市の地域商社「株式会社つなぐ」へ参画



〔国内〕システム基盤の増強

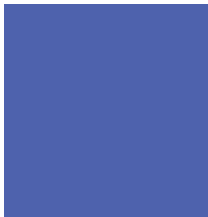
- 規模の拡大を支える、盤石で機動性(開発期間の短縮、低コスト)の高いシステム基盤構築に向け、クラウド化を実施中
- 次期クレジットカードシステムにおいても基盤クラウド化を実施 同時稼働によりトータルコストも削減



規模の経済を発揮すべく
システム基盤のクラウド化を実施

次期クレジットカードシステム クラウド化し稼働

稼働開始: 2026年度

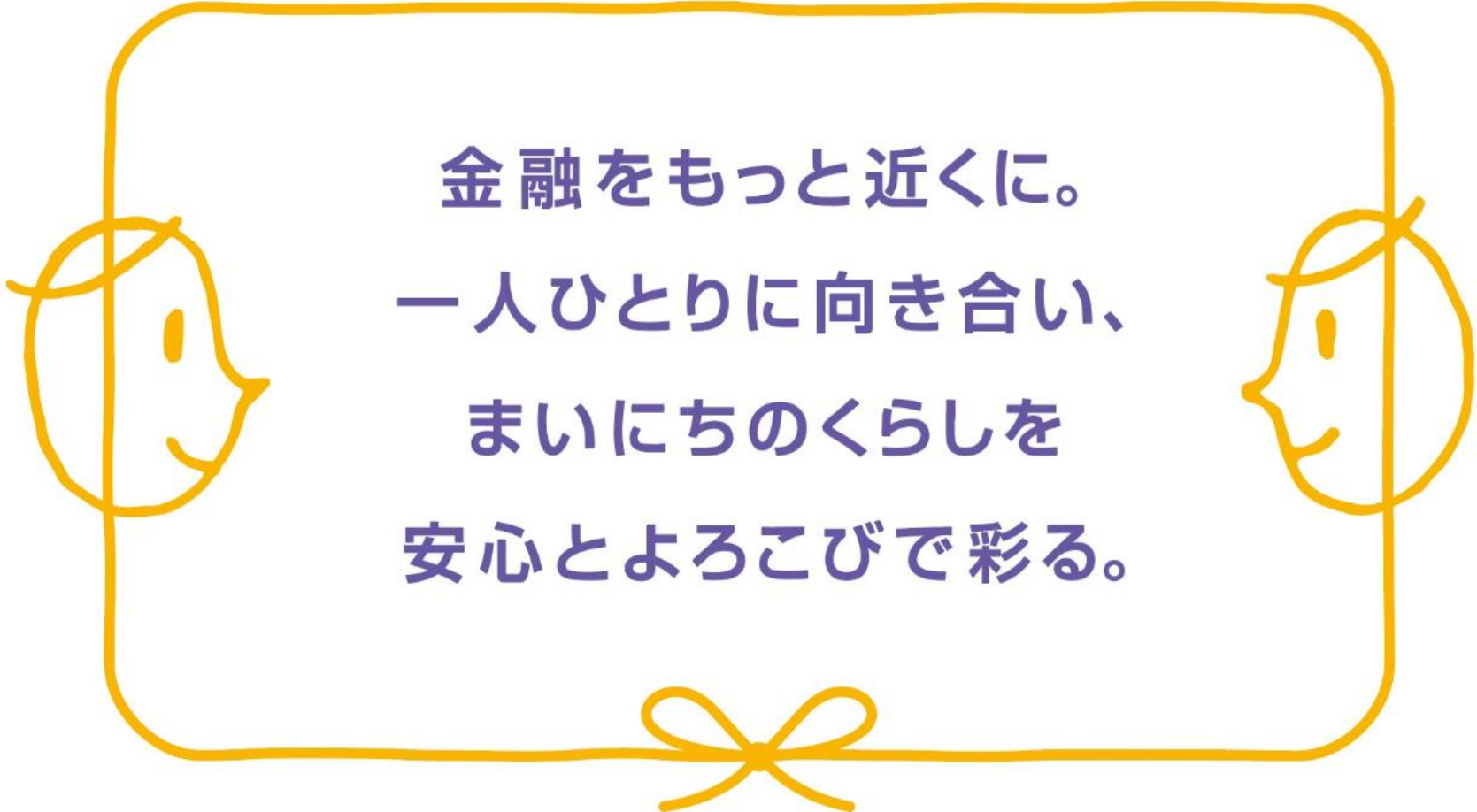


業績予想及び配当予想

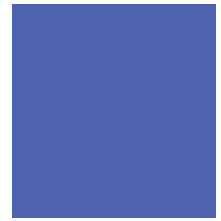
2025年2月期 業績予想及び配当予想

	連結	YoY				
			国内	YoY	国際	YoY
営業収益	5,200 億円	107 %	3,100 億円	105 %	2,100 億円	108 %
営業利益	550 億円	110 %	150 億円	129 %	410 億円	107 %
経常利益	550 億円	107 %	1株あたり配当金		配当性向	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	210 億円	100 %	年間: 53 円	中間: 25 円 期末: 28 円	54.5 %	

Our Purpose

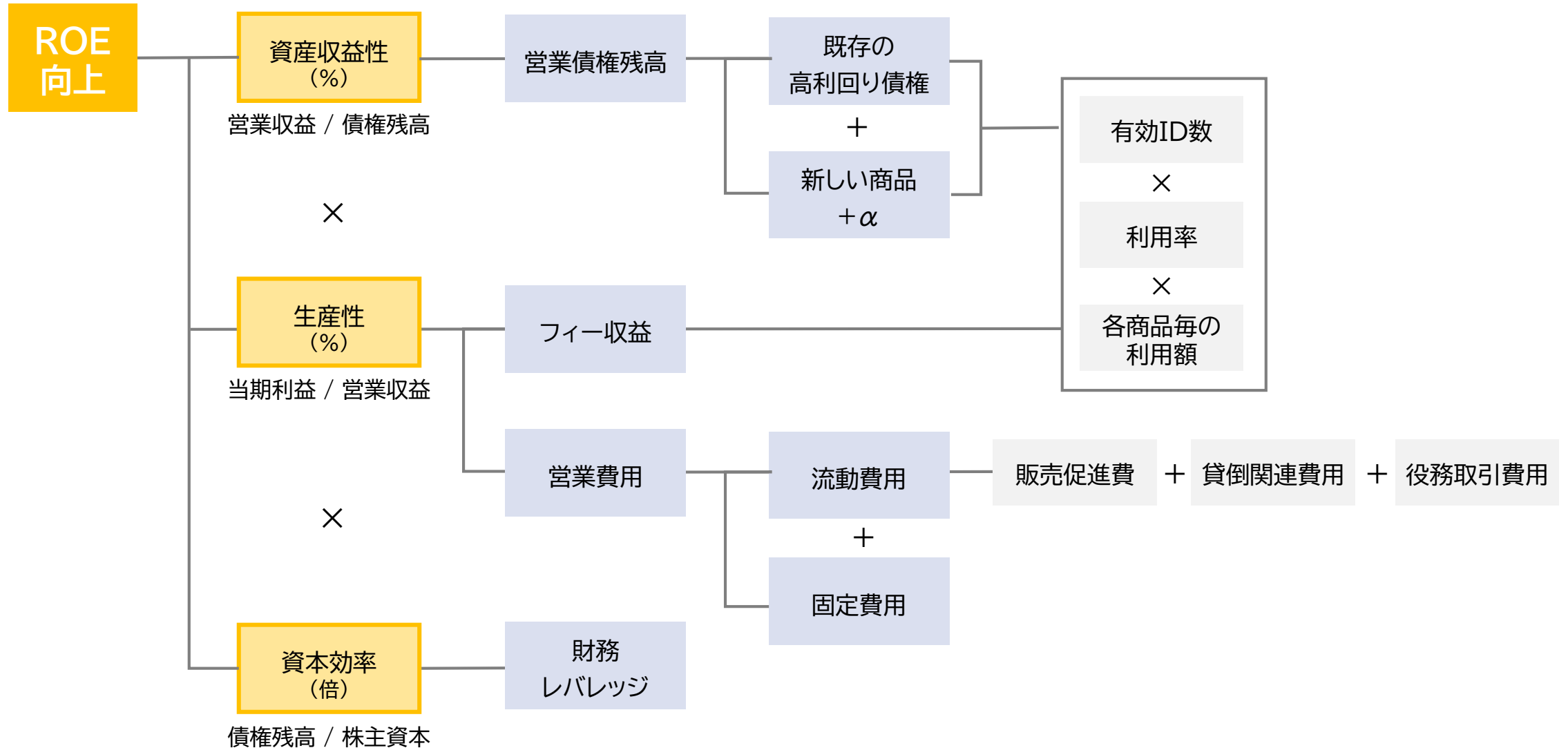


金融をもっと近くに。
一人ひとりに向き合い、
まいにちのくらしを
安心とよろこびで彩る。



Appendix

【再掲】 ROE向上に向けた考え方



バランスシートの状況

(単位:億円)

	FY 2024			FY 2024	
	1Q実績	期首増減		1Q実績	期首増減
現金預け金	4,202	▲ 2,453	預金	45,680	+297
営業貸付金	9,645	+457	買掛金	3,068	+383
銀行業における貸出金	26,394	+3,002	有利子負債(預金除く)	13,087	▲43
割賦売掛金	17,274	▲1,160	その他	2,342	▲ 170
貸倒引当金	▲ 1,140	+66	負債合計	64,178	+466
その他	13,607	+615	純資産合計	5,804	+61
資産合計	69,983	+527	負債及び純資産合計	69,983	+527

セグメント別業績

(億円)	国内計			国際計				連結計
	※1	リテール	ソリューション	※1	中華圏	メコン圏	マレー圏	※1
営業収益	753	485	463	531	86	231	214	1,279
前期比 ※2	106%	113%	103%	117%	128%	107%	127%	110%
営業利益	63	53	22	87	19	25	42	152
前期比 ※2	453%	7028%	129%	107%	91%	96%	128%	166%
営業利益率	8.4%	10.9%	4.9%	16.5%	22.7%	11.2%	19.7%	11.9%
前期差 ※2	+6.4pt	+10.7pt	+1.0pt	▲1.5pt	▲9.2pt	▲1.3pt	+0.2pt	+4.0pt

(参考) 債権流動化による収益影響 4 億円 (前期差▲22億円) ※3

※1 国内計及び国際計は、各事業に属するセグメント間取引の相殺消去後であり、連結計には、本社・機能会社および連結消去額を含む

※2 前期比及び前期差の比較対象はセグメント変更前の数値

※3 23年度より、流動化収益の計上方法を一部変更 なお、従来方式での収益影響はなし(前期差▲18億円)

エリア別業容

単位:億円		取扱高	前年同期比	営業債権残高 (流動化前)	期首増減
国内	クレジットカード	19,526	105%	18,112	+948
	ショッピング	18,498	105%	13,841	+800
	(うちリボ・分割)	-	-	3,303	+196
	キャッシング	1,027	102%	4,271	+148
	住宅ローン	1,755	126%	36,762	+1,156
	その他	-	-	12,658	+895
	国内計	-	-	67,532	+2,999
国際	クレジットカード	1,724	128%	3,022	+63
	ショッピング	1,260	127%	1,546	+34
	キャッシング	464	132%	1,476	+30
	個品割賦	427	123%	3,165	+276
	パーソナルローン	570	120%	3,383	+175
	その他	-	-	1	+1
国際計		-	-	9,572	+516

海外上場3社 1Q業績（現地通貨）

		FY 2023	FY 2024	
		1Q実績	1Q実績	前年同期比
AEON CREDIT SERVICE (ASIA) HK\$' 000	Revenue	379,953	426,547	112%
	Profit before tax	117,458	99,351	85%
	Profit for the period	96,967	83,255	86%
AEON THANA SINSAP (THAILAND) BAHT' 000	Revenue	5,459,191	5,507,210	101%
	Profit before tax	804,849	671,513	83%
	Profit for the period	644,016	539,207	84%
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad RM' 000	Revenue	452,674	522,259	115%
	Profit before tax	131,914	144,825	110%
	Profit for the period	99,363	106,413	107%

海外上場3社 1Q業績（円換算）

		FY 2023	FY 2024		為替レート
		1Q実績	1Q実績	前年同期比	
AEON CREDIT SERVICE (ASIA)	Revenue	65億円	83億円	127%	<u>為替（円 / HKD）</u> ・ FY2023Q1 : 17.33円 ・ FY2024Q1 : 19.67円
	Profit before tax	20億円	19億円	96%	
	Profit for the period	16億円	16億円	97%	
AEON THANA SINSAP (THAILAND)	Revenue	215億円	231億円	108%	<u>為替（円 / THB）</u> ・ FY2023Q1 : 3.94円 ・ FY2024Q1 : 4.21円
	Profit before tax	31億円	28億円	89%	
	Profit for the period	25億円	22億円	89%	
AEON CREDIT SERVICE (M)Berhad	Revenue	137億円	169億円	124%	<u>為替（円 / MYR）</u> ・ FY2023Q1 : 30.32円 ・ FY2024Q1 : 32.48円
	Profit before tax	40億円	47億円	118%	
	Profit for the period	30億円	34億円	115%	

国際事業の各種取扱高、債権残高の状況

(単位:億円)		中華圏(香港)		メコン圏(タイ)		マレー圏		国際事業	
			前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)		前年同期比 (増減)
クレジット カード	取扱高	644	129%	906	129%	173	121%	1,724	128%
	債権残高	1,050	+224	1,680	▲43	292	+54	3,022	+236
個品割賦	取扱高	-	-	70	128%	357	122%	427	123%
	債権残高	-	-	333	+65	2,832	+501	3,165	+566
個人ローン	取扱高	88	124%	316	127%	165	107%	570	120%
	債権残高	320	+74	1,802	+72	1,260	+322	3,383	+469
合計	取扱高	733	128%	1,293	129%	696	118%	2,722	126%
	債権残高	1,370	+299	3,815	+94	4,384	+878	9,571	+1,272

セグメント別貸倒及び国内利息返還損失引当金の状況

【貸倒引当金】

(億円)	国内計	リテール	ソリューション	国際計	中華圏	メソ圏	マレー圏	連結計
期首貸倒引当金残高	556	30	530	643	47	358	237	1,207
貸倒関連費用 (引当金繰入・損失)	60	▲3	63	170	23	88	59	231
貸倒償却額 (移管債権等含む)	147	6	141	150	19	81	49	297
期末貸倒引当金残高	469	20	453	664	51	365	247	1,140

※参考 国内子会社の期末残高
＜リテール＞ イオン銀行:20億円
＜ソリューション＞ イオンフィナンシャルサービス:408億円
イオン住宅ローンサービス:12億円

※個品割賦事業譲渡影響
92億円含む

【利息返還損失引当金】

(億円)	FY2023 1Q実績	FY2024 1Q実績
期首残高	48	25
繰入額	-	-
利息返還額	8	4
期末残高	39	20

本資料のうち、当社の将来的な経営戦略や営業方針、業績予測等にかかわるものは、いずれも現時点において当社が把握している情報に基づいて想定、算出されたものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクをはじめとする様々な不確実要素を含んでおります。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があります。



イオンフィナンシャルサービス